



2021.10.5

No. 333

毎月5日発行 定価1部10円 (組合員の購読料は組合費に含む)  
1996年3月4日第三種郵便物認可

MONTHLY

# れんごう



<http://www.rengo-hokkaido.gr.jp>

発行

日本労働組合総連合会 北海道連合会

発行責任者

藤盛敏弘

〒060-8616 札幌市中央区北4条西12丁目 はくろビル6F TEL (011) 210-0050 center@rengo-hokkaido.gr.jp

## 2021はたらく女性の集会開催!!

連合北海道女性委員会は、はたらく女性が抱える諸問題について組織を越えて共有し合い、改善に向けた一歩につながることを目的として、毎年「はたらく女性の集会」を開催している。今年は9月4日にウェブで開催し、全道各地から8産別3地区104名が参加した。

最初に女性委員会の金子委員長が「女性参画が進むことより、女性の課題が議論の場にあがり、女性の疑問に真摯に向き合えるようになる。それがジェンダー平等につながる。多様性が『決定』に反映されるよう、女性参画の推進に向けたより一層の取り組みが必要」とあいさつした。

基調講演では、北海道労働局雇用環境・均等部指導課指導課長の佐藤浩一さんより「育児・介護休業法の改正について～男性の育児休業取得促進等～」と題して講演があった。

男性の育児休業取得率には、取得促進への取り組み状況や上司の理解が大きく関係している。男性の育児参加は女性の就労継続にも寄与するもの。現在、取得希望が叶わなかった男性労働者は約4割であり、労使協定により、具体的な取得意向の個別把握を行うことなどを定めなければならない。また、介護との両立支援制度も各種あるが、介護休業の申出・取得等を契機とする退職の強要などの不利益取り扱いやハラスメントも深刻な問題。「知らない」「使われない」は、無いのと同じ。男女ともに仕事と育児等の両立をめざす法改正の趣旨や改正概要などの学習をすることが、とても重要であり、両立支援の一助として企業向けの助成制度の活用を進め、育児や介護による離職を防ぐために労使で連携していくことが大切であることを学んだ。



産別報告では、情報労連・株式会社つうけんの田中由香利総務人事部長から、事業主行動計画の策定や、技術職や管理職の女性割合の増加をめざすなど、男性の多い職場での女性活躍に向けた事業所の取り組み報告があった。

最後に、齊藤副事務局長より、「介護離職やケアラーは社会的な問題になっており、日頃からこうした課題に対する体制づくりを職場で進めるとともに、誰もが直面する課題だからこそ、学習を深め、声を上げ、社会を変えていこう」というまとめで集会を終えた。

女性委員会では、これからもはたらく女性のエンパワーメントをはかるよう、はたらく女性のニーズにあった集会を企画していく。



# ほっかいどう若者応援プロジェクト

## 「食」の支援 第2弾が終了

全道で展開された「食」の支援は、2月に開催した北海道大学と4月23日から7月21日の小樽商科大学までの「第2弾」の取り組みまで、道内19大学24キャンパス、8505人の学生の皆さんに食料や日用品を届けることができた。

「食」の支援の取り組みに際し、ホームページなどから募った寄付は、124企業・団体、134名の個人の皆様から総額31,041,355円の寄付金のご協力とともに、24の企業・団体、個人の皆様から食材等の提供をいただき、各大学での配付数の拡大や内容の充実につながった(いずれも7月27日現在)。

途中、緊急事態宣言の発出による対面授業の停止などから、日程の大幅な見直しを余儀なくされたが、開催へ向けた各大学、並びに大学生協の皆さんのご尽力もあり、当初予定していた全ての大学での実施に結びついた。また、各地域では、地元大学と実行委員会や地元企業・団体などの皆様とのつながりを築くこともできた。そして、「ありがとうございました」「本当に感謝します」との学生の皆さんからの声と、事前準備や会場での受付などに当たった学生委員会の皆さんの活躍は、徐々に取り戻しつつある活気ある大学キャンパスを感じさせてくれた。

応募時に実施した学生アンケートで「困っていること」を尋ねたところ、「バイトのシフトが減らされた」「バイトがない」「仕送りが減った」「お金がない」といった声の大半を占め、経済的に厳しい学生の現状を

まざまざと感じた。また、「友達と会えない」「部活や交流の機会がない」といったコロナ禍の生活で孤独感を訴える声もあり、プロジェクト設立当初からの課題を改めて再認識するものとなった。

若者応援プロジェクトの取り組みが、新聞やテレビなどでも多く取り上げられ、幅広く知られるきっかけとなった。このことから、企業・団体、個人の皆様からの寄付につながったこと

に加えて、各地域で市民やNPO等による独自の学生支援の取り組みの輪が広がっている。

若者応援プロジェクトによる「食」の支援「第2弾」の取り組みは終了するが、「第3弾」としてスタートすべく、これからも学生の皆さんへ「応援の輪」を届け、「暮らし」「学び」「コミュニティ」を支えていきたいと思う。

ご協力いただきました多くの皆様に、この場を借りて感謝申し上げ、引き続きの取り組みに、ご理解とご協力のほどよろしくお願いいたします。ありがとうございました。



## 各地の大学で食の支援行動

### ●2021年7月21日／小樽商科大学

7月21日、小樽商科大学にて一人暮らしの学生等200名に「食」の支援が行われた。

2月に第一弾の北海道大学での支援を始めてから、小樽



においても大学側との日程調整を行い、当初は6月初旬に実施で準備を進めてきたが、緊急事態宣言やまん延防止等重点措置の影響で、延期を余儀なくされ、1か月遅れでの実施となった。

当日は、学生会館の多目的ホールを会場としてお借りし、前週の金曜日(16日)に設営を済ませておいた横断幕や食材等のチェックを行い、12時に開場。

支援物資はお米や缶詰、レトルト食品、カップラーメン等の基本セットに加え、地元企業からは北海道で唯一小樽に工場を持つ株式会社ニッポン様より、パスタをはじめパスタソース3種類、ホットケーキミックス等、各200食の寄贈をいただいた。

来場した学生からは、「小樽で一人暮らしをして自炊しているため、とても助かります。飲食店でアルバイトして

いたが休業になりバイトもなくなった。今日は嬉しい」「自炊をしているが食費がかかるので、支援はありがたい」との感謝の言葉を多数いただいた。

運営には小樽商科大学学生協出野専務理事をはじめ、学生委員会の皆さんが事前の会場設営や受付などのお手

伝いをいただき、スムーズに配付をすることができた。大学生協の出野専務理事からは、「この活動を機に、これからも連携して様々な活動をしていきましょう」とのご提案もいただいた。

現地スタッフの皆さん、暑い中、大変ご苦勞様でした。

## ●2021年7月20日／日本赤十字北海道看護大学(北見市)

日本赤十字北海道看護大学学生への「食」の支援を7月20日実施した。

今回は、実行委員会が調達した物資をコープさっぽろ様のご協力によりセットで納入して頂いたことで、事前の準備作業はスムーズに進んだ。

そして当日は、大学職員の皆さんの協力により、準備万端で迎えることができた。

支援物資は、実行委員会が用意したセットの他、JAしれとこ斜里様、北海道糖業労働組合北見支部様、木田製粉株式会社様から提供いただいた物資を加え、ひとり暮らしの学生の皆さんに配付した。

今回の配付では、地元実行委員会の他、日本赤十字北海



道看護大学職員、そして学生自治会の皆さんにもお手伝いいただき、感染防止を徹底してのスムーズな取り組みができた。

会場では、学生の皆さんから、「助かります、ありがとうございました」との言葉を多く頂いた。また、100%近く集約されたアンケートには、「コロナ禍でアルバイトが減って生活が苦しく、とても助かった」「実習で交通費など出費が多いし、車がなくて、実習後では時間が無く買い物も行きにくい中で、食の支援はありがたい」との声が寄せられ、多くの学生の皆さんが、コロナ禍の影響で非常に厳しい生活環境に置かれていることが明らかとなった。今回の取り組みが、ささやかながらも皆さんの力になったことをはじめ、地元実行委員会、大学職員、学生自治会が協働して取り組みができたことなど、「食」の支援の目的は達成できたことを確信した。

多くのご支援・ご協力頂いた大学職員、学生自治会の皆様に改めて感謝申し上げます。

今後も「食」の支援に取り組んでいく予定ですので、皆様のご協力をお願い致します。

現地実行委員会、並びにスタッフの皆さん、大変ご苦勞様でした。

## ●2021年7月15日／公立はこだて未来大学

7月15日、公立はこだて未来大にて「食」の支援が行われた。

「どうなん若者応援プロジェクト」としての第4弾。当日は、お米や缶詰等、2,000円相当の食材を200セット準備。大学食堂前庭に受付を設け、事前に申し込みを受け付けた学生の皆さんに配付した。

今回も、食・みどり・水を守る道南地区労農市民会議の皆さんや大学生協職員の皆さん、そして大学生協学生委員会の皆さんも一緒に活動し、当日は日焼けするほどの暑さだったが、「ありがとうございます」との言葉と元気を学生の皆さんからもらい、スタッフも感激だった。

地域も一緒に取り組みを進めてきている「どうなん若

者応援プロジェクト」の取り組み。現地スタッフの皆さん、大変ご苦勞様でした。



### 10月の主な動き

■4日(月) 14:00/WEB

地方連合会代表者会議

■6日(水) 10:00/帝国ホテル WEB併用

連合第17回定期大会

■14日(木) 10:15/ホテルポールスター札幌

第12回執行委員会

■21日(木) 13:30/WEB

中央執行委員会

### イベントカレンダー

■27日(水) 13:30/ロイトン札幌

連合北海道第34回定期大会

# 奨学金に関する電話相談

## 奨学金の返済で悩んでいませんか

収入が減り  
生活が苦しくて  
返済できない



コロナの影響で  
職を失い  
返済できない



裁判所から  
督促状が届いた  
どうしよう



保証人の  
「分別の利益」で  
何ですか



おひとりで悩まず、お気軽にご相談ください。

※個人情報保護法を遵守し、法令に基づいて個人情報を取り扱います。

### 全道一斉電話相談日

2021年**11/9**(火)~**11**(木)

10:00~16:00

**0120-783-000**

携帯電話からは011-242-5566

北海道労働者福祉協議会

受電先:北海道ライフサポートセンター

<http://www.hokkaido-roufukukyo.net/>

### 全国一斉電話相談日

2021年**11/11**(木)

10:00~19:00

**0120-416029**

(ヨイローフク)

労働者福祉中央協議会

(中央労福協)

<https://www.rofuku.net>

主催:北海道労働者福祉協議会/労働者福祉中央協議会/北海道労働金庫

協力:北海道学費と奨学金を考える会(インクル)/北海道奨学金ネットワーク

オンライン  
署名で

## #教育費や奨学金返済の負担を軽減する税制支援を

奨学金返済者や保護者の教育費の負担を軽減する税制支援(減税)の実現をめざし、オンライン署名を呼びかけています。ぜひ、ご賛同ください。

注意:署名サイトchange.orgより寄付を求めるメッセージが出ますが、これは本プロジェクトへの寄付ではありませんのでご注意ください。

オンライン署名は  
こちらから



### 署名の宛先 (順不同・敬称略)

内閣総理大臣

財務大臣

文部科学大臣

### 要請内容

- ①奨学金返済負担軽減のための税制支援の実現を!
- ②所得や年齢制限のない教育費税額控除の新設を!

### 「奨学金返済と教育費の負担軽減を求めるプロジェクト」

呼びかけ人 (順不同・敬称略)

大内 裕和(奨学金問題対策全国会議共同代表、中京大学教授)

岩重 佳治(奨学金問題対策全国会議事務局長、弁護士)

神津 里季生(労働者福祉中央協議会会長、日本労働組合総連合会会長)